

平成 26 年 12 月

一過性脳虚血発作

今回は一過性脳虚血発作についてお話します。恐らく耳にされたことのない病名だとは思いますが、最近、脳卒中の専門家の中で非常に重要視されてきているものですので、この機会にぜひとも知っておいてください。

ここでまず、脳こうそくについて簡単に復習しておきましょう。脳こうそくとは、脳血管の一部がつまったり、あるいは脳内の血のめぐりが部分的にきわめて悪くなるために脳にキズがついてしまい、その結果マヒやしびれ、呂律（ろれつ）が回らなくなるなどの症状を長く残してしまうやっかいな病気です。一過性脳虚血発作とは、脳こうそくと同じように血行障害によって起こり、脳こうそくとまったく同じような症状がみられますが、長くは続かずに（多くの場合、一時間以内に）それがすっかり消えてしまうものをいいます。ですから、マヒや呂律不良が突然起こり、あわてて病院を受診してはみたものの、診察室に呼ばれた時にはすでに症状があとかたもなく消えているというケースがほとんどです。この発作は脳こうそくと同じく、脳内を流れる血液の循環が部分的に悪くなるのが原因ですが、血液の流れ具合が短時間のみ悪くなっただけで、すぐに回復したために症状が消えるのだと説明されています。

さてそれでは、症状がすっかり消えてよかったですね、もう大丈夫ですよ、となるかというとは決してそうではなく、むしろ気を引きしめて検査や治療を行わなければなりません。なぜなら、一過性脳虚血発作は一週間以内に脳こうそくに移行するケースが、どんなに少なく見積もっても三～四人に一人はいるからです。以前は良性と考えられていた一過性脳虚血発作ですが、平成二十一年に改定された「脳卒中治療ガイドライン」（これは全ての医者が参考にする、脳卒中治療の参考書みたいなものです。）では、脳こうそくにならないようにすぐに治療を始めるように、と強く勧める記載があります。

さて、平成二十年にロンドンで発表されたガイドラインには面白いことが書かれてありまして、「微笑んだ際に顔が左右対称か」「両腕を共に挙げられるか」「ハッキリと聞き取れ、理解可能な言葉が口から出るか」の3つを調べ、どれか一つでも異常があれば脳卒中を疑いなさいとあります。これらはいずれも簡単で、どなたにでも実施できる脳卒中の早期発見法ではないかと思えます。

当外来では一過性脳虚血を疑った場合、可及的速やかに脳血管、頸部血管、心臓に関する精密検査をお勧めしています。ご存じのように、脳卒中はわが国の寝たきり原因となる病気の第一位です。その発病を予防するためにも、一過性脳虚血発作を知っていただきたいと思えます。（文・神経内科 則行 英樹）